

# 令和3年度第3回千葉市新基本計画審議会スマートシティ部会 議事要旨

1 日 時 令和3年7月20日（火）16時00分～17時30分

2 場 所 Web開催（千葉中央コミュニティセンター10階101会議室）

3 参加者 <<委員>>5名（五十音順）

高梨 園子委員、南雲 岳彦委員、沼尾 波子委員、森川 博之委員

<<事務局>>7名

神崎総合政策局長、勝瀬未来都市戦略部長、鈴木スマートシティ推進課長、吉野国家戦略特区推進課長、山田総務局次長、安部情報経営部長、上原業務改革推進課長、大須賀行政改革担当課長

## 4 議 題

(1) 「（仮称）千葉市スマートシティ推進ビジョン」について

(2) 答申（案）について

(3) その他

## 5 議事概要

(1) 「（仮称）千葉市スマートシティ推進ビジョン」について

「（仮称）千葉市スマートシティ推進ビジョン」について、事務局より説明を行い、委員との意見交換を行った。

(2) 答申（案）について

「スマートシティ推進ビジョンについて（答申案）」について、事務局より説明を行い、委員との意見交換を行った。

(3) その他

「（仮称）千葉市スマートシティ推進ビジョン」及び「スマートシティ推進ビジョンについて（答申案）」の修正について、部会長一任となった。

## 6 会議経過

～以下、議事要旨～

議題（1）「（仮称）千葉市スマートシティ推進ビジョン」について

（事務局）「（仮称）千葉市スマートシティ推進ビジョン」について、資料2をもとに、説明を行った。

<意見交換>

森川部会長 一 同	資料2の「策定趣旨」について、ご意見を伺いたい。 (特に意見無し)
森川部会長 南雲委員	次に、「千葉市が目指すスマートシティ」について、ご意見を伺いたい。 今、他の自治体では他都市との連携を考え始めている。例えば、都市OSの共有やデジタルIDなどの都市間連携の議論があり、そういった雰囲気もどこかに入れられる良いのではないか。
森川部会長	5つの重視する視点のなかに「多様な主体との連携」があり、このステークホルダーに他の自治体も含まれるのか。
スマートシティ推進課長	資料2の16ページに当初案の記載があり、そこでは自治体間連携を記載していたが、文字数を減らす中で消してしまっていたので再度検討し、要素として入れていきたい。
森川部会長 南雲委員	次に、「取組みの方向性」について、ご意見を伺いたい。 おそらく、千葉市においても外国人の数は増加していると思うので、暮らしがスマート！や市役所がスマート！のなかに多言語対応を入れると、共生社会の雰囲気が増す。日本人の千葉市民だけがスマートになるのではない、ということを入れた方が少し優しく感じがする。
スマートシティ推進課長	多様性は各分野にまたがるものではあるが、暮らしがスマート！などで多様性を読み取れるように検討していきたい。
森川部会長 スマートシティ推進課長	千葉市には外国人はどのくらいおられるのか。 3万人弱。
沼尾委員	最近ではLGBTや男女共同参画などの取組みも進められており、共生ということが具体的にイメージできる概念が入ると良いのではないか。また、資料2の38ページの千葉市の魅力を感じるというところで、千葉市に住んでいてよかったと感じる、千葉市の魅力・観光資源発掘、MICE等の機会を通じてICTを用いた魅力発信と書いてあるが、市民の方が魅力を感じる事が観光資源発掘に結び付くのがよく分からなかった。あと、MICE等の機会を通じてICTを用いた魅力発信とあるが、これは外にアピールしていくというイメージか。千葉市の魅力を市民が住んでいてよかったと感じるときの評価は、他律的なものなのか、自分たちがいいねと思うのか悩ましい。
スマートシティ推進課長 沼尾委員	方向性と取組例の整合が取れていないというのはご指摘のとおりなので、精査したい。 最近ではYouTubeやInstagramで個人が発信をしており、行政が改めて千葉市の魅力を発信するよりも、個人がSNSにアップしたくなるような景観なり、心地よさなり、居心地のいいものとか、自然との調和とか、あるいは快適性みたいなものが、ビジュアルで魅せられる空間を整えることが大切だ。
南雲委員	あえて言うならば、ポストコロナに向けて対外発信し、コロナの影響で開催できなくなったマラソン大会やフェスを開催し、関係人口を呼び込むというのはあり得るかもしれない。
高梨委員	千葉に長い間住んでいらっしゃる方というのは、当たり前だと感じてしまい、魅力を魅力と思わないのではないか。他県からいらしている方から、千葉には意外と良いところが沢山あって千葉に移って来てよかったという話を伺う機会が多く、改めて千葉の魅力に気づかされる。
森川部会長 南雲委員	次に、「推進体制・推進手法」、「ロードマップ」について、ご意見を伺いたい。 市民参加の年齢は幅広くということが書かれているが、あえて高校生、大学生、いわ

ゆるジェネレーションZという、将来そのまちに住んでいく人たちをあえて明記したほうがいいかなと思っている。スマートシティ・インスティテュートでもジェネレーションZというシリーズでウェビナーをやっているが、大学生は大人が難しく考え過ぎていることをスパッと切り捨てて、本質を突くのが上手い。我々は何を考えていたのだろうと、逆にはっとさせられることもある。

スマートシティ推進課長 千葉市では、市政に若者の意見を取り入れるために、こどもの参画事業を積極的に進めている。我々もそれを活用して、高校生と大学生とスマートシティのワークショップを行っている。こういったことも分かるようにしていきたい。また、市内に東京情報大学という大学があり、人材育成に大きな役割を果たすと考えているが、先週そこで講義を行い、また御意見を聞くという機会も設けている。こういった取組を今後も継続的にやっていくという意思表示としても、記載のほうを検討していきたい。

森川部会長 自分たちのまちという意識は、昔は全くなかったもので、確かにそういうのがあるだけでも意識が変わる。自分たちがつくっていけるというか、意見が言えるというだけでも意識が変わる感じはする。

沼尾委員 50ページのロードマップについて、以前はテクノロジー活用だったものがサービス展開というふうに変化が来ていて、テクノロジー感はちょっと弱まったが、逆にあらゆる行政サービスに分野ごとの課題があり、分野横断的な課題解決策の検討の話もあるなかで、最後エリアマネジメントという話が出てくるのだが、このスマートシティにおけるサービス展開ということで、何にフォーカスしたいのかということが見えづらくなったと思う。

森川部会長 我々のような技術系の感覚と、それ以外の方々の感覚が違うのかもしれないが、テクノロジー活用というと、何かテクノロジーを使えば終わりみたいな感じがしていて、それでは良くないという考えもあったと思う。テクノロジーは、結局そのテクノロジーを使って何かを良くするためのものなので、それも踏まえてのサービス展開なのかなと思う。

沼尾委員 この1行目だけを見ていると、行政が様々なサービスを展開していくに当たって現状どういう分野でどういう施策や事業に課題があって、どうやってそれを解決して、最後、エリアマネジメントが出てきて課題解決というと、何の課題の解決なのか、1行目で言わんとしていることが分かりにくい感じがした。

南雲委員 これは確かに混在していて、サービス展開を横に見ていくと、まず縦のサイロごとだったものが5年後には分野横断になる、水平になるということを言っている。10年後はそれをエリアマネジメント、閉じてしまうからおかしいのであって、ここはさらに広がっていくという、都市間連携にならなければいけない。エリアマネジメントは、どちらかというとテクノロジーの実証のところ、5年後のところではエリアごとに行なわれているが、これが自律自走になるような体制がエリアマネジメントによってはなされるというふうを書くのであれば、まだ少しはまるかなと思う。段が1個ずれているかもしれない。

スマートシティ推進課長 対象エリアでのまず1つの課題、ニーズに対するサービスが生まれて、新たなニーズに基づいて複数のサービスになって横展開していくというのがスマートシティのイメージになっており、もともとテクノロジー活用としていた部分は、テクノロジーありきみたいなものだったのを、この表をこのロードマップに落としていけたらというイメージに今はなっているのかなと思っている。エリアマネジメント団体が出てくるの

も、エリア内で複数のサービスを連携させるためにはそういったものが必要だということではあるが、御指摘いただいたように、他エリアの横展開みたいなものがこのロードマップには欠けているというところもあるので、その辺はまた時間軸とか、縦と横の関係をもう一度整理させていただきたい。テクノロジー活用という軸ではなく、サービス展開とさせていただいたのは、こういったスマートシティの推進イメージをロードマップ上にしていければということで考えていきたい。

南 雲 委 員 冒頭に、他都市との連携をみんな意識していると申し上げたが、今のままだと千葉市の中で閉じ過ぎているのかもしれない。もちろん千葉市のエリアごとに育ててきたものを千葉市内のエリア間で横展開するというのはあると思うが、オール千葉市のサービスの展開のみならず、他都市との連携というのも入っていないと何かもったいない気がする。

スマートシティ推進課長 課題ごととかエリアごととに進捗は違うのかもしれないが、将来的に分野とか課題ごとにその横連携が必要だという前提で進むものもあると思うので、その辺は意識してまた検討を進めたい。

沼 尾 委 員 そうすると、ロードマップで、サービス展開が一番上になっているが、順番を変えたほうがイメージしやすいのではないかと。例えばデータ連携、テクノロジー実証、サービス展開、市民参加。

スマートシティ推進課長 今、ご説明したサービス展開というのは元々テクノロジー活用だったが、今回の御意見とかを踏まえて、先ほどのスマートシティの推進イメージという全体のものがサービス展開となっていて、その下の3つというのはそれを支える、サービス展開よりもちょっと一段下のものになると思っている。サービス展開をするために、テクノロジー実証があったり、データ連携が必要であったり、またそこのエリアマネジメントとかにもつながるのかもしれないが、市民参加も必要であったりというような、サービス展開だけが一段上のような整理に今はなっていると認識している。

南 雲 委 員 イメージからすると、これは社会課題への取組ということか。課題解決をする幅を指しているというふうに見える。社会課題は、まず発掘するというのがあって、それをテクノロジーでちょっとやってみて、データを連携させていくという流れではないか。

沼 尾 委 員 1行目と2から4番目の質が違うというか、これは4つのことをやりますというふうにも読めてしまうが、フェーズが違うように思える。悩ましいのは、千葉市のような政令指定都市では、都市内分権で、エリアごとに何か考えていくという視点もとても重要であること。分野ごと、分野横断的都市間連携のような話のほかに、ローカルなコミュニティ単位での分野横断的なものも出てくるのではないかと。

スマートシティ推進課長 エリア内で進めていくというのは、千葉市のスマートシティを進めるに当たっての重要な特徴的なもので、それはやらせていただきたいし、やる必要があると考えている。ただ、その先に他都市との連携というものも、風呂敷を大きくし過ぎるかもしれないと思って取り除いたところではあるが、南雲委員からご指摘のとおり、大前提でもあるので、それは両面で考えていきたい。今後の進め方として、答申案でご意見をいただき、答申案の後、また案づくりというのを進めていくが、これについてはまた庁内での議論もあるので、今日の意見を答申案でどこまで入れて、その先どう整理するかとかいうのは、検討させていただきたい。

沼 尾 委 員 基本的には中身の修正というよりも、今後進めていくに当たって、どういう文言でどういうふう打ち出していくかが重要。例えば職員の方にその理念をきちんと伝えて

	今後の取組に落とし込めるかということだと思う。打ち出し方の問題であって、そもそもの考え方の違いではないと考えている。
高 梨 委 員	事務局は、先生方の御意見を反映して適切な表現に修正し、本当に分かりやすく、動きやすい表現にさせていただいており、感謝している。よりスピーディーな対応で、千葉市は頼もしいと思っている。私も先生方の様々な御体験やお教えいただいたタイムリーな情報を、今後の千葉市のスマートな形になっていくために、更に努力を重ねていきたいと考えている。
沼 尾 委 員	14ページ目の図はすごく分かりやすいものになったと思う。ただ、恐らく後ろの写真が千葉市の自然環境とか社会資源みたいなものをイラストで表しているのだろうが、自然環境と社会資源、そして多様な個人がそこにいるということがイラストで分かるような、人の絵があると、多様性を実現するという雰囲気が示せるのではないかな。
南 雲 委 員	足元の話でいうと、脱炭素先行地域100か所を日本はつくることになった。スマートシティも日本は100か所だが、炭素が出るところは都会、要するにスマートシティをつくることになる。もともと違う文脈できているスマートシティ全国100か所というのと、脱炭素先行地域100か所は重なってくる。今回のペーパーはこのままで良いが、実際にここから作り込みをするときには脱炭素をあと2割増しぐらいで入れていかないと、将来のベクトルを読み間違えてしまうのではないかな。
沼 尾 委 員	今、南雲先生がおっしゃられたことは大変重要で、例えば横浜市や世田谷区は地方の農山村とコラボをしてCO <sub>2</sub> 排出の買い取りなど、自治体間連携を通じて脱炭素を掲げている。ほかにも農産物の安定的な供給で食の安全保障にローカルに備えるとか、かなり戦略的にトータルな取組をしている。そういったことに目配りすることも大切だと思う。

## 議題（2）答申（案）について

（事務局）答申（案）について、資料3をもとに、説明を行った。

### <意見交換>

森 川 部 会 長	資料3の答申（案）について、ご意見を伺いたい。
沼 尾 委 員	部会の意見というのは、会議中に出た意見をこのように箇条書きに書いていくということになるのか。原案に対して我々が何か意見を言っているときに、既にその原案は修正されたものが添付されており、原案がどう直ったかというよりも、何が大事だと思ったかというところにフォーカスしたコメントであれば良いが、こういうふうに修正したほうが良いのではないかという審議のプロセスとして載せていくという書き方でまとめるという理解で良いのか確認したい。
スマートシティ推進課長	推進ビジョンの原案の記載内容を確認していただいた上で御意見をいただき、ご審議いただくという審議手法とさせていただきたいと考えている。委員意見については、当初の原案に対して、こういう意見であるというものを記載し、今回の意見反映版にそれを反映したとさせていただきたいと考えている。審議会の中で、ビジョンの原案の内容にとどまらず、たくさんの御意見をいただいているが、諮問内容がスマートシティ推進ビジョンであるので、ビジョンの原案に対する御意見だけを答申案には記載させていただいて、それ以外の幅広い御意見については、これからビジョンを実行、推進していく上で活用するという整理にさせていただきたい。
森 川 部 会 長	部会の意見というと、この構成だけを見ると、答申案に対する意見になってしまう。部会意見が答申案に対する意見ではないということが書いてあるが、もしかしたら誤

解を与えてしまうかもしれない。ただ、千葉市でこのような形でまとめられているのであれば良い。最後に皆さまから一言ずついただきたい。

南雲委員 よくここまでキャッチアップされたと思う。他の自治体のスマートシティの文章と比べても遜色のないところまで来ていると思うので、この勢いを止めないで、色々な人を巻き込んでもらえると良い。もともと千葉市は人口の規模や東京に隣接している点で恵まれている。しかも、ベッドタウンではないという、独立した産業圏を持っているということもすごいと思うし、これから人口が増えていく兆しも見えているところで、高い発射台の上に立っていると思うので期待している。今回、このような機会をいただき、感謝申し上げます。

沼尾委員 最後に事務局から出てきた案を拝見したときに、感銘を受けた。私も各地の行政改革や財政再建の取り組みに関わってきたが、いま、時代が大きく転換していく中で、本当の意味での行政改革ということをもう1回見詰め直し、行政が本気になって合意形成の在り方や、参加の手法、サービス提供の在り方まで見直していくことが必要な時代に突入していると感じている。ところが、組織はなかなか旧態依然としているところもある。さらに国との関係もあって難しいところもあると思うが、今回、こういう案が出てきて、千葉市がこれから本格的なスマートシティをつくることに取り組む方向性が示されようとしているのはすばらしいことである。このような場面に立ち会わせていただけたことは幸せなことである。ぜひこれを具体化して、魅力ある千葉市を作っていただきたい。

高梨委員 委員の皆さまから今までにない知見を教えていただき、大変勉強になった。また、事務局は、先生方の御意見を整合性のある形にまとめ、驚くほどスピーディーに色々と対応していただき、素晴らしいと思っている。この部会で様々なことを学ばせていただいたお礼として、スマートシティを実現するため、市民の皆さまとともに全力を尽くして取り組んでいきたい。

森川部会長 先生方から心温まる応援メッセージをいただき、感謝申し上げます。このビジョン原案、答申案については、先生方からいただいた御意見を踏まえて、修正できるところは修正して、また皆様方に御確認いただいた上で、最終的には部会長である私の一任という形で決定させていただきたいと思うが、どうか。

一 同 賛成

森川部会長 私もこのような機会を頂戴して、とてもありがたく思っている。非常に多様性のある先生方にお集まりいただき、大変素晴らしいと思っている。事務局においてはこれまでの意見を非常にうまく的確に取り上げていただき、感銘を受けた。貴重な機会ありがとうございました。

### 議題（3）その他

総合政策局長 委員の皆様方におかれては、懇切丁寧な御指導をいただき、事務局が発想し得ないような考え方、あるいは視点をお示しいただいたことにより、ビジョン案にふさわしい内容に高めることができた。特に目指すべきスマートシティの像や実現のための原則、具体的な施策にまで踏み込んでいただき、ビジョンの骨格をつくり上げることができたと考えており、心より感謝を申し上げます。今後は、今回の部会での議論を忘れることなく、取組をしっかりと進めてまいります。

—閉会—